

Program Notes

11月「トロイカ」

トロイカは、3頭立ての轎、冬のロシアの風物詩の一つです。この曲は、とても描写的に書かれていて、鈴の音、蹄の音など、まるで絵を見ているかのように伝わってきます。しかも、見事なまでの芸術性をもって。

12月「クリスマス」

さあ、初めの、あの暖炉で火が明々と燃えていた家に戻ってきました(これは、もちろん私の想像です)。おばあさんおじいさんに加えて、子供たち、孫たち、仲良く、この一年の幸せを噛み締めながらワルツを踊ります。舞踏会ではなく、居心地がよい温かい家庭での、しみじみとしたワルツ。

チャイコフスキー：ドゥムカ ハ短調 ～ ロシアの農村風景

Op.59

ドゥムカは哀歌とも訳され、19世紀にポーランドからひろがり、スラブ系諸国で流行した民族色の濃い音楽で、チャイコフスキーのこの作品ではゆっくりとした秋冬の静かな景色とロシアの素朴な歌と踊りの生き生きとした旋律が交互に表現されています。

リスト：愛の夢 第3番 S.541-3

もともと歌曲として作曲した3つの曲で、1850年に作曲者自身がピアノ独奏版に編曲したものです。第3番は、ドイツロマン派の詩人フライリヒャルトの「おお、愛しうる限り愛せ」という詩に作曲された、リストの作品のなかでもっとも知られている小品です。題名からすると、夢見る恋愛のようなイメージがありますが、人類の理想の愛ともいべきスケールの大きな世界を謳いあげている、優美さと情熱をあわせもつ作品です。

リスト：メフィスト・ワルツ 第1番 「村の居酒屋での踊り」

S.514

16世紀ドイツのファウスト伝説に強く惹かれていたリストが、同郷の詩人レーナウによる叙事詩「ファウスト」から靈感を得て作曲したピアノ曲で、初版の楽譜には、その引用が表題として印刷されています。その大意を示します。「メフィストフェレスに連れられて、ファウストは陽気に騒いでいる村の居酒屋に来る。そして彼は、肉感的なひとりの女をみそめる。メフィストフェレスはヴァイオリンを弾き始めるが、その演奏は、官能的で甘く、時に恐ろしげで、時に暴力的でさえある。その魔法の音に導かれて、ファウストは女を誘惑して、森へと消えていく。」

参考文献：チャイコフスキーの「四季」と「ドゥムカ」は、上原彩子執筆。他は「作曲家・人と作品(音楽乃友社)」とWikipediaを参照した。

Profile

上原 彩子 (ピアノ) UEHARA Ayako

3歳児のコースからヤマハ音楽教室に、1990年よりヤマハマスタークラスに在籍。ヴェラ・ゴルノスタエヴァ、江口文子、浦壁信二の各氏に師事。第3回エトリンゲン国際青少年ピアノコンクールA部門第1位を始め多くのコンクールで入賞を果たす。2000年3月、第5回浜松国際ピアノアカデミーに参加、ピアノアカデミーコンクールでは、アカデミー史上、初のグランプリを受賞。同年7月、シドニー国際ピアノコンクールにて第2位及びピープルズ・チョイス賞、オーストラリア人作品賞、室内楽賞、ショパン賞等各賞を受賞。2002年6月には、第12回チャイコフスキー国際コンクール ピアノ部門において、女性としてまた、日本人として史上初めての第一位を獲得。



第18回新日鉄音楽賞フレッシュアーティスト賞受賞。これまでに国内外にて演奏活動を行い、2004年12月にはデュトワ指揮NHK交響楽団と共演し、2004年度ベスト・ソリストに選ばれた。CDは日本人ピアニストとして初めて、EMIクラシックスと契約し、チャイコフスキーの作品を収めた「グランド・ソナタ」、フリーベック・デ・ブルゴス指揮のロンドン交響楽団との共演によるチャイコフスキーのピアノ協奏曲第1番及びプロコフィエフのソナタ7番等を収めた「プロコフィエフ作品集」がワールドワイドで発売された他、キングレコードより「上原彩子のくすみ割り人形」「ラフマニノフ 13の前奏曲」「上原彩子のモーツァルト&チャイコフスキー」「デビュー20周年記念コンサート・ライヴ盤」がリリースされている。2006年1月10日には「日本におけるロシア文化フェスティバル2006」オープニング・ガラコンサートでゲルギエフ指揮マリンスキー管弦楽団と、2007年1月にはベルリン・フィル八重奏団と共演。また、2008年9-10月にはクリスチャン・ヤルヴィ指揮ウィントーン・キュンストラ管弦楽団とのオーストリア及び日本ツアーを行ない、2017年3月には、ベルリン及び日本国内4都市において、エリアフ・インバル指揮ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団と共演、高い評価を受けた。2022年にはデビュー20周年を迎えた。2024年からベートーヴェンのピアノソナタ全曲演奏を開始、今年の3月に2回目のリサイタルを行う。東京藝術大学音楽学部 早期教育リサーチセンター准教授。令和4年度文化庁長官表彰受賞。オフィシャル・ホームページ：<https://www.japanarts.co.jp/artist/AyakoUEHARA>

上原 彩子 ピアノ・リサイタル

2025年1月19日(日)

開演：14:00

小田原三の丸ホール大ホール

ごあいさつ

上原彩子さんのピアノ・リサイタルにお越しいただきありがとうございます。本日は上原さんが今、全身全霊で取り組むベートーヴェンに加えて、ふるさと感じておられるだろうチャイコフスキーと、同じく幼なじみのレパートリーであるリストを演奏していただきます。渾身のプログラムをお楽しみください。

Rzp LLC主催 次回演奏会
2025.6. 15 (日)

石田泰尚 ヴァイオリン・リサイタル
小田原三の丸ホール大ホール(1階席のみ)

Rzp LLC 代表 磯部

Program

Program Notes

上原 彩子 (ピアノ)

ベートーヴェン: ピアノ・ソナタ第14番 嬰ハ短調 Op.27-2 「月光」

第1楽章: アダージョ ソステヌート
第2楽章: アレグレット
第3楽章: プレスト アジタート

チャイコフスキー: 「四季」 ~12の性格的描写 Op.37bis より

1月「炉端にて」
2月「謝肉祭」
6月「舟歌」
11月「トロイカ」
12月「クリスマス」

ベートーヴェン: ピアノ・ソナタ第4番 変ホ長調 Op.7

第1楽章: アレグロ モルト エ コンブリオ
第2楽章: ラルゴ、
 コングラン エスプレッシオーネ
第3楽章: アレグロ
第4楽章: ロンド、
 ポコアレグレット エ グラツィオーソ

チャイコフスキー: ドゥムカ ハ短調 Op.59

リスト: 愛の夢 第3番 S.541-3

リスト: メフィスト・ワルツ第1番 「村の居酒屋での踊り」 S.514

ベートーヴェン: ピアノ・ソナタ第14番 嬰ハ短調 Op.27-2 「月光」
ベートーヴェンのピアノソナタは、生涯を通して実験の連続でした。「悲愴」「月光」「熱情」の三曲セットがレコードを通して第二50年紀(1918-1968)に良く聴かれたものですが、50年を経て、又聴けるようになったのはうれしいことです。作品27の2曲は「二つの幻想曲風ソナタ」と名付けられていますが、二曲目の「月光」はソナタ形式による第1楽章を回避し、クライマックスと重心を第3楽章に置いて、重厚長大なソナタ形式で書いています。

ベートーヴェン: ピアノ・ソナタ第4 変ホ長調 Op.7
ベートーヴェンがウィーンに進出した後の本格的なピアノソナタは、作品2の三曲セット(1~3番、1793~1795)と、続く4番(1796~1797)ですが、3楽章構成が常識であったハイドン・モーツァルトの伝統様式から脱却した4楽章構成となっていて、4番は演奏時間が30分と破格のスケールの曲です。

チャイコフスキー: 「四季」~12の性格的描写 Op.37bis より
1875年末、チャイコフスキーはペテルブルクの出版社から月刊誌「ヌーヴェリスト」のために、毎月、その月に相応しいピアノ小品を書くようにとの注文を受けました。このロシアの人気雑誌の読者は、大小様々な町や人里離れた田舎に住む人たちまでもが対象で、この曲を通してチャイコフスキーの音楽はより広大なロシアに浸透していきました。また、各曲には、出版社によって選ばれた詩的な標題とロシアの詩人による詩が付けられ、より豊かで果てしない、それでいて身近で素朴な詩的世界が、芸術的な広がりとともに感じられます。

1月「炉端にて」
田舎の質素な佇まいの家。おばあさんが暖かい暖炉のそばで、物思いに耽っています。中間部の問いかけるようなフレーズは、エフゲニー・オネーギンのアリア「来るべき日は、私に何をもちたしてくれるのか?」と似ています。不安げに自分自身に問いかけます。

2月「謝肉祭」
ロシア語で、マースレニツァという、古来スラブ人の冬を送り春を迎える祭り結びついているお祭り。茶目っ気たっぷりに仮装した人々、お酒を飲んで益々陽気な人々、そんな人々で溢れかえり、華やかで色彩豊かな一曲です。

6月「舟歌」
夏の夜の水辺。やわらかな波間に浮かぶ少し気だるいメロディー。明るい曲ではないにも関わらず、開放感を感じます。

休憩

